

第15次第9回苫小牧市廃棄物減量等推進審議会 会議録（概要版）

日時：令和7年6月5日（木）午後4時～午後5時00分

場所：苫小牧市役所9階会議室

出席者：委員14名

環境衛生部長、ゼロごみ推進室長、施設管理課長、施設管理課長補佐、
ゼロごみ推進課長、ゼロごみ推進課長補佐、その他事務局3名

1 開会

2 議案

（1）苫小牧市リサイクルプラザ苫小牧条例改正案について

事務局より資料1について説明。

現在のJFEリサイクルプラザ苫小牧について、幅広い環境テーマを扱う環境学習交流施設としての活用を目指す改正案を提示。

審議会として改正案について異議なしの旨を確認。

以下、質疑応答。

<委員A>

資料の「2 条例の改正案」の(5)で、“指定管理者制度を導入する場合”と書いてあるが、どういう見通しを持っているのか。

<事務局>

条例改正する上で、この記載をしないといけないことになっている。しかし、ハード面で、施設の修繕がかなり厳しい状況のため、当面は直営での体制を組んでいくことを考えている。

<委員B>

新たな環境学習施設と位置づけて運用していくことは大変良いことだと思っている。
資料の「2 条例の改正案」の(3)実施事業において、太字になっている項目について、来年の4月から運用展開するにあたって事業を検討していくと思うが、現時点でどのような事業として考えているのか、それぞれの項目の内容について、もう少し説明をしていただきたい。

<事務局>

今回の資料で太字になっている部分は、審議会で答申いただいた内容である。具体的な事業内容について、今のプラザはどちらかというとごみのリサイクルやリユースに特化した施設だが、この部分は継続しつつ、例えば、環境の保全ということであると、生物多様性の観点から、いろいろな動画コンテンツを入れてみるだとか、そういったことを今後もう少し詰めながら、ソフト面について充実させていこうと思っている。

また、沼ノ端の地域の皆さんとお話しをする場があり、その中で、地域交流の場ということで、プラザの会議室を地域の皆さんに利用していただくという話が出たため、そのような活用方法を考えている。

<委員B>

この太字に書かれている項目について、こんな事業を考えている、あるいは、こういうような内容で新たに組みんでいきたいということを含めて、具体案がまとまって、4月から運用開始になる前に、審議会の方にも説明をいただけるというふうに理解をしてよろしいか。

<事務局>

その通りである。

<委員C>

質問というかお願いに近いのかもしれないが、条例を変えるための理由というのは、今審議しており、その中で環境学習交流施設としての活用を目指しているというふうに言っていると思うが、それに対しての目的が環境の保全だったり、主体的な地域社会の形成だったり、地域交流の促進と言う順番があるんだなあと認識しているところである。一方で、実施事業だと、環境学習の推進、各種講座・講演会の開催、通常だと、再生品・再利用品の展示及び提供、環境情報の発信並びに地域交流の場という順番になるのではないかと考えている。地域交流の場というところを、施設の利用率を上げるための施策というふうに認識しているが、環境学習交流施設だとそっちに寄ってしまうのではないかと思うので、“環境学習交流**等**施設”とか、フレキシブルに動けるような形だと、これを見た市民が理解しやすいのではないかと思う。

質問ではないので、意見は求めないが、検討していただければと思う。

<事務局>

もちろん言われたことについては検討させていただきたい。名称については、条例上の名称ということで環境学習交流施設となってしまうが、実際の名前については、また別の、皆さんになじみやすいような名前をつけるべきというふうに考えている。

実施事業の中身の並び方についても、新しいことを取り入れるという点でこういう順番の書き方をしてしまったが、より良い条例改正に向けて検討させていただきたい。

3 報告

(1) 令和6年度ごみ量について

事務局より資料2について報告。

以下、質疑応答。

<委員B>

岩倉市長の時代は、ゼロごみ大作戦という形で取り組みをしてきたが、これからはゼロごみ大作戦というネーミングの取り組みがなくなる。何か新たな考え方も入れて、今までのように市民と共同によるごみ減量化の取り組みをやっていきたいというような話が、以前の審議会の時にあったように記憶をしている。今までのゼロごみ大作戦というのは、かなり市民にとっては定着していたので、今後その辺がどうなっていくのか、市民にとっては関心を持っている事項である。今後、ゼロごみ大作戦に変わって、今までのような取り組み、あるいは何か新たな取り組みをしていくのかどうかということも含めて、今一度伺いたい。

資料の内容については了解をした。

<事務局>

ゼロごみ大作戦は平成19年から6回に渡り、市民や企業の皆様と一緒に取り組んできた。その中でも、いろいろな取り組みを、ごみの減量、リサイクルの推進、街の環境美化の3つをテーマでずっとやってきたので、その培ってきたものは引き続き行っていくものと考えている。

今、子供ど真ん中ということで市長が取り組んでいるものもあるが、環境衛生部としては、もちろん今までの大作戦で取り組んできたことも当然引き続きやらないといけないと思っているし、合わせて今年度、環境マイスター制度というのを検討しているところである。こちらについては、ごみの減量以外にも、例えば、生物多様性の問題や、ゼロカーボンといった観点も取り入れた新たな取り組みも検討しており、ゼロごみの町苦小牧ということで引き続き対応していきたいと考えている。

<委員A>

この題目に直接関係ないが、ビン・缶・ペットボトルの収集について、それぞれ別の袋に入れて出しているが、収集車では全部一緒に入れて運んでいる。最初に袋を分けて出す必要があるのか教えてほしい。

<事務局>

ビン・缶・ペットボトルを同じ袋に入れてしまうと、収集車の中で割れたものが他の素

材に入り込むということが起きてしまうため、袋については別にしていきたい。

<委員A>

収集車の中で、袋がボロボロになって破れるというようなイメージを持っていたが、そうではないのか。

<事務局>

収集業者には苦勞をかけているが、ぎゅうぎゅうに積むと中で割れてしまうので、割れない範囲で収集車に積んでいただいている。その中で袋が破れるという事はない。

<委員A>

分けて入れることに意味があるということで理解した。

4 その他

第15次審議会の終了に当たり、平野会長及び環境衛生部長より挨拶。

5 閉会